

田村将軍

楠山正雄

青空文庫

京都きょうとに行つたことのある人は、きつとそこの清水きよみずの観音かんのん
 様さまにお参りまいをして、あの高い舞台たかぶたいの上から目の下の京都きょうとの町まち
 をながめ、それからその向むこうに青々あおあおと霞かすんでいる御所ごしよの松まつば
 林やしをはるかに拜おがんだに違ちがいありません。また後うしろをふり返かえると
 御堂おどうの上うへにのしかかるようにそびえている東山ひがしやまのはるかのて
 つぺんに、真まつ黒くろに繁しげつた杉すぎの木立こだちがぬつと顔かおを出だしているの
 を見みたに違ちがいありません。この京都きょうとの町まちを一目ひとめに見晴みはらす高い
 山たかの上うへのお墓はかに埋うめられている人は、坂上さかのうえ田村麻呂のたむらまろといむかし昔

のなだか名高いしょうぐん將軍しょうぐんです。そしてそのなきがらを埋うめたお墓はかを將しょう軍ぐん塚づかといつて、千何年なんねんという長い間ながあひだ京きやう都との鎮守ちんじゆの神様かみさまのように崇あがめられて、何か世なによの中に災なかわざわいの起おこる時ときには、きつと將軍塚しょうぐんづかが音おとをたてて動うごき出すといひ伝つたえているのでござい
ます。

坂上田村麻呂さかのうえのたむらまろは今いまから千年ねんあま余むかしりも昔むかし、桓武天皇かんむてんのうが京きやう都とにはじめて御所ごしよをお造つくりになつたころ、天子てんしさまのお供ともをしならみみやこから京きやうの都とへ移うつつて来きたうちの一人ひとりでした。背せいの高たかさが五尺八寸しゃくすんに胸むねの厚あつさが一尺二寸しゃくすん、巨人おおびとのような大男おおおとこでございしました。そして熊鷹くまたかのようなこわい目めをして、鉄てつの針はりを植うえたようなひげがいつぱい顔かおに生はえていました。それから体からだの重おも

みが六十四斤きんもあつて、怒おこつて力ちからをうんと入れると、その四倍ばいも重おもくなるといわれていました。それでどんな荒あらえびすでも、虎とらおかみ狼おかみのような猛もうじゆう獣じゆうでも、田村麻呂たむらまろに一目ひとめにらまれると、たちまち一ひとちぢ縮ちぢみに縮ちぢみあがるといふほどでした。その代かわり機嫌きげんよくにこにこしている時ときは、三つ四つの子供こどももなついて、ひぎに抱だかれてすやすやと眠ねむるといふほどの人でした。ですから部下ぶかの兵士へいしたちも田村麻呂たむらまろを慕したいきつて、そのためには火水ひみずの中なかにもとび込こむことをいといませんでした。

田村麻呂たむらまろはそんなに強つよい人ひとでしたけれど、またたいそう心こころのやさしい人で、人並ひとなみはずれて信心しんじんぶか深く、いつも清きよ水みずの觀音かんのん様さまにかかさずお参まいりをして、武運ぶうんを祈いのつておりました。

二

ある時とき奥州おうしゅうの荒あらえびすで高丸たかまるというものが謀反むほんを起おこしました。天子てんしさまの御命令ごめいれいを少しも聞きかないばかりでなく、都みやこからさし向むけてある役人やくにんを攻せめて斬きり殺ころしたり、人民じんみんの物ものをかすめて、まるで王様おうさまのような勢いきおいをふるつておりました。天子て子んしさまはたいそう御心配ごしんぱいになつて、度々たびたび兵隊へいたいをおくつて高丸たをお討うたせになりましたが、いつも向むこうの勢いきおいが強つよくつて、そのたんびに負まけて逃にげて歸かえつて来きました。そこでこの上うはもう田村麻呂たむらまろをやるほかはないというので、いよいよ田村麻呂たむらまろを大たいし

將ようにして、奥州おうしゅうへ出陣しゅつじんさせることになりました。

天子てんしさまの仰せ付けを受けますと、田村麻呂たむらまろはかしこまつて、

さつそく兵隊へいたいを揃そろえる手てはずをしました。いよいよ出陣しゅつじんの

支度したくができ上があつて、京都きょうとを立たとうとする朝あさ、田村麻呂たむらまろはいつ

ものとおりに清水きよみずの観音かんのん様さまにお参まいりをして、

「どうぞこんどの戦いくさに首尾しゆびよく勝かつて、天子てんしさまの御心配ごしんぱいの解と

けますように。」

と熱心ねっしんにお祈いのりをして、奥州おうしゅうへ向むかつて立たつて行きまし

た。

奥州おうしゅうへ着ついていよいよ高丸たかまると戦いくさをはじめてみますと、な

るほど向むこうは名高なだかい荒あらえびすだけのことはあつて、一度戦いくさをし

かけたら勝つまでは決してやめません。味方が残らず討たれて最後の一人になるまでも決して後へは退きません。親が討たれば子が進み、子が討たれば親がつづくという風に、味方の死骸を踏み越え、踏み越え、どこまでも、どこまでも進んで来ます。

ですから田村麻呂の軍勢も、勇氣は少しも衰えませんが、さ

しつめさしつめ矢を射るうちに敵の数はいよいよふえるばかりで、

矢種の方がとうに尽きてきました。いくら気ばかりあせつても、

矢種がなくなつては戦はできません。残念ながら味方が負けいく

さかと田村麻呂も歯ぎしりをしてくやしがりしました。するといつ

どこから出て来たか、大きなひげの生えた男と、かわいらしい小

さな坊さんが出て来て、どんだん雨のように射出す敵の矢の中を

くぐりくぐり、平気な顔をして敵の勢の中へ歩いて行って、身方の射出した矢をせっせと拾っては、こちらへ運び返して来ました。お陰で身方は射ても、射ても、あとからあとから矢がふえて、いつまでもつきるといふことがありません。ますますはげしく射かけましたから、さすがに乱暴な荒えびすも総崩れになつて、かなしい声をあげながら逃げ出しました。味方はその図をはずさず、どこまでも追つかけて行きました。敵の大將の高丸はくやしがつて、味方をしかりつけては、どこまでも踏み止まろうとしましたけれど、一度崩れかかった勢いはどうしても立ち直りません。そのうち高丸も田村麻呂の鋭い矢先にかかつて、乱軍の中に討ち死にしまいました。田村麻呂はこの勢いに乗

つて、達谷の窟という大きな岩屋の中にかくれている、高丸の仲間の悪路王という荒えびすをもついでに攻め殺してしましました。

三

田村麻呂は奥州の荒えびすを平らげて、ゆるゆると京都へ凱旋いたしました。天子さまはたいそうよろこびになつて、田村麻呂にたくさんの御褒美をお授けになりました。そして改めて征夷大將軍という役におつけになりました。みんなはそれから後田村麻呂に田村將軍という名をつけて、尊敬するよ

うになりました。

田村麻呂は自分がこれほどの名誉を受けることになつたのも、清水の観音様にお祈りをした御利益だと思つて、都に帰るとさつそく清水にお参りをして、ねんごろにお礼を申し上げました。

さてこの時までも始終不思議でならなかつたのは、あの時の小さな坊さんと大きなひげ男でした。そこで話のついでに、田村麻呂はお寺の和尚さんに向かつて、奥州の戦ではこれこういうことがあつたと話しますと、和尚さんは横手を打つて、「ははあ、それでわかりました。するとその小坊主というのは勝軍地藏さまで、大きなひげ男と見えたのは勝敵毘沙門天

に違ちがいありません。どちらもこの御堂おどうにお鎮しずまりになつていらつしやいます。」

「いいました。田村麻呂たむらまろは不思議ふしぎに思おもつて、

「ではさつそく、その地藏じぞうさまと毘沙門びしゃもんさまにお参まいりをして来よう。」

「といつて、本堂ほんどうに祀まつつてある勝軍しょうぐん地藏じぞうと勝敵しょうてき毘沙門びしゃもん天てんのお像ぞうの前まえに行つてみますと、どうでしょう。地藏じぞうさまと毘沙門びしゃもんさまのお像ぞうの、頭あたまにも胸むねにも、手足てあしにも、肩かた先さきにも、幾いく箇所かしょとなく刀かたなぎずや矢やぎずがあつて、おまけにお足あしにはこてこてと泥どろさえついておりました。

田村麻呂たむらまろは今いま更さら仏ほとけさまの御利益ごりやくのあらたかなのにつくづく感か

心して、天子さまから頂いたお金を残らず和尚さんにあずけて、お寺をりっぱにこしらえました。今の清水寺があればほどの大きなお寺になったのは、田村麻呂の時から、そうなったものだということです。

田村麻呂はその後鈴鹿山の鬼を退治したり、藤原仲成というものの謀反を平らげたり、いろいろの手柄を立てて、日本一の将軍とあがめられました。五十四の年に病気で亡くなりました。けれどもこれほどのえらい将軍をただ葬ってしまうのは惜しいので、そのなきがらに鎧を着せ、兜をかぶせたまま、棺の中に立たせました。そしてそれを都の四方を見晴らす東山のとっぺんに持って行って、御所の方に顔のむくように

立^たてて埋^うめま^ずした。
こ^れが将^し軍^う塚^{ぐんづ}の起^おこり^りで^ござ^います。

青空文庫情報

底本：「日本の英雄伝説」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年6月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：今井忠夫

2004年1月6日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

田村将軍

楠山正雄

2020年 7月12日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>